



野殿地区自主防災会役員の皆さん(手前から事務局の三澤さん、舟田副会長、白石則夫会長、白石隆副会長、柴山班長)

自主防災組織って何をするのですか？

自主防災組織は、住民が「自分たちの地域は自分たちで守る」という考え方のもと、自主的に防災活動を行う組織のことです。防災に対する理想的な考え方は「自助」「共助」「公助」の3つがバランス良く連携することですが、災害の規模が大きくなるほど、すべての現場に消防などの公的機関が迅速に救助に向かうことは難しくなります。そのため、災害発生直後の防災活動ではまず自分(家族)の命を

守り、次に地域ぐるみで住民を守っていくことが重要です。

市内には共助を担う自主防災組織が25団体(3月現在)あり、いざという時に備えてさまざまな訓練・研修を行っています。その中で、今回は岩野谷4・5・6区で活動する「野殿地区自主防災会」の白石則夫会長と役員の皆さんに活動内容についてお聞きしました。

―野殿地区自主防災会を立ち上げたきっかけは？

全国各地で地震などの災害が多発しており、また野殿地区は丘陵地で市街地から離れているため、万一の際は孤立する可能性もあり「公助」もすぐには来ないかもしれない。それなら、地域の人が互いに助け合わなければならないと思い、平成28年に結成しました。

―防災会の組織や役割はどうなっていますか？

4月現在の地区内世帯数は405戸、884人います。

防災会のメンバーは34人で、災害発生時には東野殿公会堂に対策本部を置き、主に一人暮らしの高齢者を見回る「安否確認班」、傷病者などを医療機関や指定福祉避難所に運ぶ「救助搬送班」、被災状況やライフラインを確認する「被害状況確認班」、炊き出しを行う「給食班」の4班が活動します。

―普段は、何か訓練などをされていますか？

毎年3月初めに全体訓練を行っています。各班活動の確認だけでなく有事の際により効率的に動けるよ

う、その都度手順の見直しもしています。令和元年10月の台風19号豪雨の時は、実際に安否確認を行いました。



令和4年度の訓練の様子

―最後に活動における課題や、これから自主防災組織をつくろうと考えている人たちに何かアドバイスを。

自主防災組織は「自助」と「公助」の間をつなぐための活動、まず自分の身は自分で守るのが第一ということを心掛けてほしいです。組織のかたちや訓練内容も、例えば土砂崩れとか浸水被害など、自分たちの地域に想定される災害に対応した活動が必要だと思います。

大切なのはメンバーの防災に対する心構えと互いの信頼感。これからも気持ちを合わせて活動を続けていきたいですね。